

市内特別
郵便

さば和則

県政REPORT

No.31

佐波和則オフィシャルサイト www.saba-3839.jp



このからていまいにお開くください。 ※書いてある場合は十分に読んでから開いてください。

国際大会の開催を見据え整備を推進



9月定例議会は、9月21日～10月13日まで開かれ、一般会計で44億7,599万余円の補正予算案、条例関係議案、意見書などを審議し、すべて可決成立しました。補正予算の主な内容では、愛知環状鉄道(株)が行うICカード乗車券の導入整備に対する支援、学習支援ボランティアの養成やフードバンクを活用した子ども食堂への支援方法

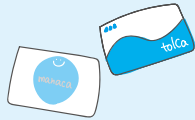
の調査研究などの子どもの貧困対策、愛知県体育館を名城公園北園に移転するための調査費、また、事故多発交差点の信号灯器のLED化等に要する経費などが計上されました。閉会日の10月13日には、愛知発の新しい社会モデルを目指すことを主眼とした「平成30年度施策及び当初予算に対する提言」を知事に提出しました。

主な議案

愛知環状鉄道のICカード乗車券導入に向けた整備

2019年秋に開催されるラグビーワールドカップを見据え、愛知環状鉄道のICカード導入に向けた整備を推進していきます。

- ①導入整備期間：平成29年度～平成30年度
- ②利用開始時期：平成31年春(予定)
*ラグビーワールドカップ2019開催時には利用可能
- ③サービス内容
*愛知環状鉄道線に「TOICA」を導入。「manaca」など全国相互利用可能な交通系ICカードも利用可能
*愛知環状鉄道の主な切符売り場で「TOICA」「TOICA定期券」を発売



愛知県新体育館検討調査について

現体育館は開館から50年以上が経過し老朽化が進行していることや、全国大会やアジア競技大会(2026年開催予定)などの国際大会の開催には、十分な機能・規模を有しているとは言えない状況にあります。

名城公園北園を移転地と想定して、新体育館の検討に必要な諸条件の調査を行っています。



〈新体育館の基本的な考え方〉

- ①大相撲名古屋場所に相応しい風格のある施設
- ②ピンポン外交など50年以上の歴史を引き継ぐ施設
- ③全国大会を常時開催できる施設
- ④アジア大会を始めとした国際大会を開催できる施設
- ⑤全国レベルのコンサート、イベント、コンベンション等の拠点となる施設



子どもの貧困対策の実施について

子どもの貧困対策会議から、提言された48の施策を道しるべとし、学校教育の充実やスクールワーカーの設置、生活困窮世帯に対する相談員の資質向上、子どもが安心して過ごせる居場所づくりなど、教育の支援や育成環境の整備などに早急に取り組みます。

具体的には、学習支援事業をサポートするボランティアを確保するための取り組み、子ども食堂の充実を図るため、フードバンクによる食料支援を活用した子ども食堂の支援方法について調査研究を行っています。

また、子どもの貧困問題への理解を深めるため、県民やボランティア、行政職員を対象にシンポジウムを開催します。(開催時期：平成29年12月頃)



代表質問要旨

Q 自動車産業への支援について

知事

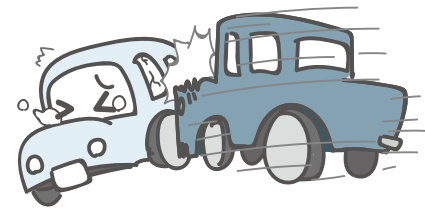
次世代の自動車は、部品の軽量化や小型化がさらに進むとともに、電動化や自動運転の進展に伴い、エンジン関連部品等が減少する一方で電池やモーター、センサーなどの部品が増加するなど、産業構造が大きく変化し、本県企業の雇用環境にも影響を及ぼしうると認識しています。引き続き、次世代自動車に係る国内外の動向を注視し調査研究を進めながら、先を見据えた施策対応に全力を尽くします。



Q 生活道路における交通安全対策について

警察本部長

愛知県内の道幅が5.5メートル未満の道路で発生した人身交通事故は、本年8月末現在5,168件、全体の約20%を占めており、幅員の狭い生活道路は、自動車の通行よりも歩行者・自転車の安全確保が優先されるべき道路であり、車両の速度抑制をはじめとした対策を講じています。なお、「ゾーン30」は、県内231か所まで整備。本年4月から全国に先駆けて「可搬式速度違反自動取締装置」を運用し、通学時間帯などを中心に取締りを実施しています。



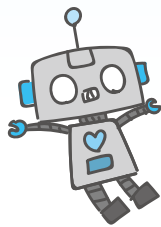
9月補正
交通安全施設の整備

- 信号灯器のLED化 563本(歩行者：36か所 225本、車両用：62か所 338本)
- 道路標識の更新 390本、道路標示の更新 42km

あいち発明の夏2017 ～産業労働委員会質疑抜粋～

「愛知の発明の日」制定の契機となった豊田佐吉翁の生誕150周年を記念し、「あいち発明の夏2017」と銘打ち、大規模イベントを集中的に開催しました。

「ロボカップ2017名古屋世界大会」には、42の国と地域から2,532名、392チームが参加、13万人の方々に来場していただきました。26の競技で熱戦が繰り広げられ、本県からは12チームが参加し、このうち2チームが表彰されました。「世界青少年発明工夫展2017」には、15の国と地域から246名、159作品が参加しました。一連の取り組みを通じ、「あいち発明の夏」は、子ども達をはじめ多くの方々との科学技術・創意工夫への興味や関心を高める絶好の機会となり、今後もロボット関連の展示会やイベントなど様々な機会を捉え、本県のロボット産業を発信していきます。



あいち航空ミュージアム

本県が整備を進めている「あいち航空ミュージアム」が11月30日にオープンします。名誉館長には、航空機にまつわる映画をつくられた、愛知県出身の演出家・映画監督の堤幸彦氏、館長には、航空機分野を専門とした鈴木真二東京大学大学院教授が就任。専門家で構成するアドバイザーボードを設け、ミュージアムの運営や企画を充実していきます。



国(厚生労働省)が2023年技能五輪国際大会の愛知への招致方針決定！！

今回の決定は、モノづくり産業が発展し、技能を尊重し技能を楽しむ地域性、国家資格である「技能士」の数も日本一であり、技能五輪全国大会でも優れた成績を残していること、また、国際大会を開催する競技会場の規模、輸送・宿泊などのインフラ面でも評価されたものです。2019年夏のワールドスキルズインターナショナル総会で開催地に決定されるよう、関係者が一丸となって取り組んでいきます。



〈技能五輪国際大会の概要〉

国際的に技能を競うことにより、参加国の職業訓練の振興や技能水準の向上などを図るとともに、青年技能者(満22歳以下)の国際交流と親善を目的に、2年毎に開催。約60の国と地域から約1,200名の選手が参加し、CNCフライス盤、石工、洋菓子製造など50職種程度の競技で技能を競う大会。

トピックス